



三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2025-2026
クラブテーマ

友に学び、ともに歩み、共に成長



2025. 12. 8

外部卓話

No.2544 No. 16



会長挨拶

三条南ロータリークラブ
会長

木村 譲

本日は飯塚農園様から卓話にお願いしております。飯塚さんと私のつながりは、中小企業家同友会という会で一緒でした。同友会では、経営者同士が互いに学び合い、切磋琢磨しながら成長していく場として、多くの貴重な出会いと学びの機会をいただいてきました。飯塚さんは、JCにもおりましたが、その時は私はすでに卒業しており、同友会でJCに入会していましたことをお聞きしました。

3年前まで同友会で一緒にさせてもらっていましたが、その間、飯塚さんの農業への情熱や、地域社会への貢献しているお話を数回聞いておりました。

飯塚さんがどのような想いで農業に取り組まれ、どのような工夫や努力を重ねてこられたのか、本日はその貴重なお話を伺えることを、心より楽しみにしております。

続きまして、先日の活動についてご報告いたします。

先月11月27日に行いました三条商業高校での出前授業の様子が、12月4日の三條新聞に掲載されましたのですが、詳細についてお話ししておりませんでしたので、再度説明させて頂きます。各テーブルにお配りしたのが授業後のアンケートです。

約100名の生徒から「社会人の責任を感じた」「めったに聞けないことがあった」「グループディスカッションすることにより知識を深めることができた」といった前向きな感想が多数寄せられました。また、「将来の進路選択に役立った」「社会人としての心構えが分かった」といった具体的な声もあり、大変有意義な事業になったと実感しております。

なお、12月ごろには、様々な学校行事とともに動画にして学校に寄贈する予定となっております。

ちなみに、このアンケート結果の集計にはAIを活用しました。以前であれば手作業で集計していたものが、今ではAIにデータを渡すだけで、あっという間にグラフやスライドまで作成してくれます。

具体的には、手書きのチェックシートの部分と自由記入の部分がありましたが、AIがそれらを正確に読み取り、分類し、統計的な分析まで行ってくれました。これにより、従来であれば数時間かかっていた作業が、わずか数分で完了することができました。

さらに、AIが作成したグラフやスライドは、視覚的にも分かりやすく、プレゼンテーション資料としても十分に活用できる品質でした。

私が利用したのはGoogleのAIですが、先月末にはさらに高性能な新バージョンが発表され、技術の進歩の速さを肌で感じています。AI技術は日々進化を続けており、私たちの仕事の在り方や、社会の構造そのものを変えつつあります。このような変化の時代において、時代に取り残されないよう、日々学び続けなければいけないと改めて思いました。

一方で、AIはあくまでツールであり、それをどのように活用するかは、私たち人間の判断と経験に委ねられています。今回のアンケート集計でも、AIが分析結果を提示してくれましたが、その結果をどう解釈し、どう活用するかは、私たちの役割です。AIと協働しながら、より良い成果を生み出していく姿勢が、これから時代には重要になっていくのではないかでしょうか。

最後にお知らせです。クリスマス例会にご招待するゲストですが、現在4名の方にご参加いただけますと伺っております。気になる方や、もう一度ロータリーの雰囲気に触れてほしい方がいらっしゃいましたら、無理のない範囲で結構ですので、お声かけをお願いいたします。

ロータリーカラーブの魅力を一人でも多くの方に知っていただき、共に活動していただくことで、より良い社会を築いていくことができると思っております。皆様、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆本日の出席：39名中30名

◆先週までの通算出席率：89.38%

◆本日のお客様：△飯塚農園 代表 飯塚英晃様

◆メークアップ：△12/1 親睦委員会ミーティング（例会場）桑原朋子さん、江花正高さん、平松修之さん、布施純也さん、木村雅也さん、田村隆雄さん、藤田寛嗣さん、木村譲会長、加藤一芳幹事△12/1 ガバナー補佐選定相談会議（魚兵）大溪秀夫さん、野崎正明さん、荒澤威彦さん、銅治康之さん、平松修之さん、熊倉高志さん、永桶俊一さん、木村譲さん△12/2 ウィンターフェスティバル（旭小学校）田中康之さん、布施純也さん、江花正高さん、加藤一芳幹事、吉沢栄一さん

◆幹事報告 加藤一芳幹事

■R I 第2560地区ガバナーノミニーデジグネット

（2028-29年度ガバナー）は新発田城南ロータリークラブの長谷川寿一（としかず）氏に決定しました。

■市内4RC会長幹事会△日時：2025年12月19日（金）12:00より△会場：株栗山庄之助商店△出席者：木村譲会長・加藤一芳幹事△議題：4RC合同夜例会、他

よいことの
ために
手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチエスコ・アレッソ（イタリア）
第2560地区ガバナー 室賀 信宏（白根）
第4分区ガバナー補佐 青柳 修次（燕）
会長 木村 譲
幹事 加藤 一芳
S A A 関 博市

事務局
〒955-8666 三条市柳町2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL 0256-35-3477
FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL https://www.sanjo-minami.jp

ニコニコボックス

12/8 10,000円 今年度累計 258,000円

木村会長「本日はお忙しい中、飯塚様、卓話よろしくお願ひします」

加藤幹事「飯塚英晃さん、卓話を楽しみにしています」

吉沢さん「飯塚農園飯塚さん、卓話を楽しみにしています。
よろしくお願ひ致します」

田中さん「三条商業高校の出前授業に協力していただい
た皆様ありがとうございました」

野崎さん 田代さん 銅治さん 渡辺(俊)さん 廣岡さん

坪井さん「BOXに協力します」

長谷川さん「BOXにご協力ありがとうございました」

卓話

「農業を通じ
未来を育てる」

飯塚農園 代表 飯塚英晃様



【自己紹介】

昭和56年生まれ。スポーツ歴：水泳、ハンドボール。趣味：船釣り、葉巻。家族構成：両親、妻、子供3人

【飯塚農園の紹介】

- ・経営総面積1 Oha
- ・主な栽培品目：アスパラガス（緑.紫.白）作付け総面積約2ha。水稻約 6.6ha（コシヒカリ・約 3.3ha、新之助・約 3.3ha、こがねもち・約 0.4ha）、その他冬野菜
- ・従事者：両親（作業補助）、飯塚夫婦、正社員2名、期間工パート約10名
- ・アスパラガス総出荷量(令和6・7年) 約 17トン（束のみ）
- ・水稻総収穫量(令和7年) 約 42 トン予定。（国民約822人分の年間消費量）



・理念 「農業幸育」

・ビジョン

「就労者が幸せな未来を描けるような労働環境を育てる」

最近の米価高騰についての主觀

- ・なぜ高騰？ → 需要と供給のバランス
(但し複合的な要因が絡み合っている)
- ・対策は？ → 当面はする必要なし
(大きな天秤の振れ幅から見えてきた価格の塩梅)
- ・今後どうなる？ → 来年は高い確率で値下げの傾向
(すでに新米在庫はダブついているが、大手が高値で抱えているため市場相場が下がらない)
- ・輸入米の動向？ → 備蓄米に使用？後ろに控えているが、そこまで安くはない
(米自体は安いが、関税や出荷までの歩留まりを考え計算すると、既存の米価に比べればむしろ高値傾向)

【飯塚農園の挫折と再起の歩み】

2002年：農業大学校卒業後に自宅就農

2004年：祖父より父へ経営承継

2005年：第一期アスパラガス初収穫

2012年：第一期アスパラガス 失敗により破棄

2013年：自身の農業経営に絶望するが、友人と恩人からの鼓舞により第二期アスパラガス栽培を決意

2014年：農業人生をかけて第二期アスパラガスを作付け開始

2015年：アスパラガス収穫スタート

2016年：本場を体感するため単身イタリアへ。

事業継承し代表に就任

2019年：理念創出、社員初雇用、燕三条青年会議所入会、父退職

2021年：燕三条青年会議所卒業、新潟県中小企業家同友会入会

2022年：経営指針成文化と実践の会にて理念、方針、ビジョンを成文化

2024年：社員二人目が入社

2025年：初の加工品を委託生産

チャレンジ品目としてショウガ栽培するが干ばつでほぼ全滅

【出荷実績】

- ・新潟県内外のレストランや飲食店多数
- ・五つ星ホテルなど宿泊施設各種（帝国ホテル、パレスホテル、マンダリンオリエンタル東京、万代シルバーホテル、浦島等）
- ・名店出荷
- ・新潟県内外スーパー、直売所等
- ・卸売市場、生協

【その他の活動】

- ・視察、研修、取材受け入れ
- ・農業交流
- ・そして特に大事にしている活動は…



「三条市内の学校給食出荷」

「子供の未来はまちの未来」

【飯塚農園農産物の特徴】

- ・まずは何より、たくさんの中出荷実績による品質の客観的な保証
- ・毎年の土壌診断をもとにした適切な栄養補給による土づくり
- ・自家培養した納豆菌、乳酸菌、酵母菌の利用による低農薬栽培



【飯塚農園のこれから】

事業

- ・特に生産量の足りていない春アスパラガスの栽培強化
- ・晚秋から冬期にかけての売り上げ増進
(ショウガ・ペースト事業)

社会性

- ・農地を守り遊休地（準耕作放棄地）の増加ができるかぎり防ぐ
- ・これからも農業を発信し続けたくさんの方に興味を持っていただく

【最後に伝えたいこと】

「農業とはひとつの国防である」

「護国豊穣」

